

「国立公園の魅力とそれを支える地域活動」

担当教員 高田雅之

コース概要

日程 2019年9月2日～6日

場所 北海道：利尻礼文サロベツ国立公園

参加人数 29名

コースのねらい

国立公園の優れた自然にふれるとともに、NPO活動などによる保全や、産業振興との共生に取り組む人々の活動現場を訪ね、自然の魅力を支える地域社会の在り方について学びます。また稚内市の自然エネルギーの現場を訪ねて自然との関わりを考えます。

内容

サロベツ湿原地域

初日はまず、日本最北の国立公園「利尻礼文サロベツ国立公園」の中のサロベツ湿原を訪ねました。活動の中核施設であるサロベツ湿原センターでNPOサロベツ・エコ・ネットワークの方のお話を聞いて、サロベツの自然やNPO活動、地域の人々との関わりについて学びました。またサロベツ湿原の木道を散策しながら、かつての泥炭の採掘跡地や、地平線が見える日本最大の高層湿原の雄大さを体感しました。夜は豊富町営大規模草地農場で星空を見上げ、天の川と流れ星を観察しました。

2日目は、豊富町牛乳公社で酪農業の生産物である牛乳やヨーグルトを製造する工場を見学の後、海岸に沿って連なる長大な海岸砂丘林内を散策しました。そして失われた海岸林を再生する植林用のミズナラ（ドングリ）を育てる苗畑で草むしり活動に汗を流し、実際の植林再生地の見学をしました。午後は山本牧場に酪農の現場を訪ね、湿原と農地との共存の取り組みについて学びました。次いでサロベツ湿原センターで環境省の自然保護官から国立公園の管理や課題についての講話を聞いた後、牧草地を歩いて湿原の自然再生の現場を案内していただきました。夜は豊富温泉の宿で事前学習の成果をNPOの方に見ていただき、意見交換を行いました。

利尻島地域

3日目はノシャップ岬をまわって稚内から船で利尻島を訪ねました。神居海岸パークで観光体験プログラムのひとつであるウニ採り体験をし、自分でさばいたウニを軍艦巻きにして舌鼓を打ちました。そして観光協会の方に島の自然資源を観光や地域づくりに生かす取り組みについてお話をいただき、有意義な意見交換を行いました。続いて街中に残された古い建物と倉を生かした「島の駅」を訪ね、アートや文化の視点から地域づくりに取り組む活動について学



写真1 植林用の苗畑の手入れを行う(サロベツ)



写真2 環境省自然保護官より自然再生について説明(サロベツ)

びました。夕方は溶岩が所々むき出しになった杓形の岬公園を散策し、海に沈む夕日を見ることができました。夜はホテルで自然ガイドの方による利尻の自然と暮らしについてのお話を聞いた後、前夜に続いて事前学習の発表会を行いました。

4日目は種富湿原で外来種オオハンゴンソウの駆除体験を行い、道具を使って根から掘り取ることの難しさを実感しました。次に島の経済を支えるウニ種苗センターを見学し、北麓野営場から利尻山の登山道を甘露泉水まで歩き、自然観察をしながら登山道の浸食問題やトイレ問題、外来種持ち込み防止などを現場で学びました。続いて利尻を代表する景勝地である姫沼、オタドマリ沼、南浜湿原を訪ね、美しい景観とそれを構成する植物や水辺に触れました。仙法志御崎公園でアザラシを見たのち、利尻町立博物館を訪ねて施設を見学し学芸員の方から地域の自然を知り資料を保存することの大切さについて学びました。

夜はホテルで外来種問題、風車と景観の二つのテーマでレクチャーを行い、グループに分かれて討論を行いました。

稚内地域

最終日の5日目は、自然エネルギーをテーマに稚内のメガソーラーと宗谷岬ウインドファーム（風車）を見学し、サロベツや利尻で学んだ風車と景観について現場で考えました。日本最北の宗谷岬の地に立ち、自然資源の豊かな道北の旅のしめくくりとして、宗谷丘陵フットパスコースのひとつ「白い道」を散策し北海道を後にしました。

このコースの目指すところは、国立公園の最前線で活動する様々な方のお話を聞き、自然と人との「軋轢の姿」と「共生の姿」を自分の目で見出し、自然の保護と恵みの享受について考えることです。豊かな自然の地域にも多くの方が暮らしていて、地域との関わりなしに自然は守れないことを実感し、新しい発見と忘れ難い経験が得られたのではないのでしょうか。

学習を終えて

「迷ったら前へ進め」

私は今回のフィールドスタディで実際に現地を訪れて自分自身で経験する事の大切さを学びました。湿原での特定外来生物のオオハンゴンソウの駆除作業では、外来種が増殖する問題の脅威を再認識する事が出来ました。実際に体験する事によって、座学では学ぶ事の出来ない貴重な経験が出来たと思っています。関係者の皆さんがこの地域の魅力を楽しそうに語っておられ、自然と人間の共生が出来ている素晴らしい場所だと思いました。サロベツ湿原センターの嶋崎さんの「迷ったら前へ進め」という言葉はとても印象深く残っています。これからの人生の教訓にしていきたいです。(2年 山田智之)

「交流を通して学ぶまちづくり」

風車が林立している様子を見て、最初は非日常的な風景でただただ美しいものだと感じていた。しかし現地に行き、住民の方が利尻富士を望む景観が損なわれてる恐れがあるため建設に反対しているという事実を知った。そして改めて風車を見ると純粹に美しいという思いでは見られなくなった。住民の方のお話を聞いたことで私の価値観は変わった。このFSでは他にもNPOや行政の方と交流する機会もある。こうしたさまざまな立場の方との交流を通して、まちづくりの難しさや大切さを肌で感じる事ができたことはとても刺激的であった。このFSで今後さらに地方におけるまちづくりについて学びたいと思った。(1年 島村亜咲子)



写真3 自分で採ったウニをさばいて軍艦巻に(利尻)



写真4 外来種オオハンゴンソウの引き抜き作業(利尻)